

研究部の活動 2013年

東京都産鳥類目録・野鳥記録委員会、スズメ調査探鳥会、自然教育園・野鳥調査会、定例・特定調査、シンポジウム・月例会、研究部レポート・鳥信、研究部ホームページなど、今年度も引き続き活動します。よろしくお願いたします。

今年の重点項目

1. 東京湾のシギ・チドリの実態

東京湾に限らず、日本中の湿地からシギ・チドリ類の姿が消えていっているというのが実態です。それは、日本に限らず、中国や韓国などでも同じ傾向がみられ、地球レベルでも、とくに極東の渡りのコースでの減少が著しいといわれています。その実態をとりあえず、「東京湾一帯」（葛西～多摩川河口）で、見ていきたいと思ひます。



2. 都内のツバメの繁殖状況

昨春から、〔公財〕日本野鳥の会（野鳥の会本部）が全国規模ではじめた「消えゆくツバメをまもろう」キャンペーンに呼応して、都内でのツバメの繁殖状況の調査を実施します。とくに、23区・多摩区など、平地部の実態については力点をおいていきたいと思ひます。また、他の自然関係の団体と連携を持ち、継続的な調査・研究へと発展させていく予定です。

3. ツミ・チョウゲンボウ・アオバズクの繁殖状況

1997（平成9）年8月号～98年9月号まで5回シリーズで「東京のワシタカ類」というレポートを出しました。そこに登場した鳥はチョウゲンボウとツミ、そして98年12月号には明治神宮でのアオバズクの繁殖状況が報告されています。いまから15年前の話ですので、その後どうなっているのか調べていきたいと思ひます。とくにツミについては、都内各地で営巣が見つかっていて、その実態を把握する必要があります。

《この冬の越冬鳥調査のお願い》

この冬は、ウソ・ヒガラ・キクイタダキなどの山の鳥の飛来が多そうです。また、ツグミやマヒワなど、北の国からの越冬組も期待できそうです。一方、カモたちの姿はますます少なくなったようですが、身近なフィールドではいかがでしょうか。

今冬は、カモなどの水鳥を中心とした越冬鳥調査を実施していただくとともに、ぜひ、ご自分のフィールド〔マイフィールド〕での状況を、過去にさかのぼってまとめたレポートもお寄せください。

【調査結果・マイフィールドレポートの送り先】下記のいずれかでお送りください。

①文書 ②Fax ③メール：それぞれの住所・番号・アドレスは本誌奥付をごらんください。